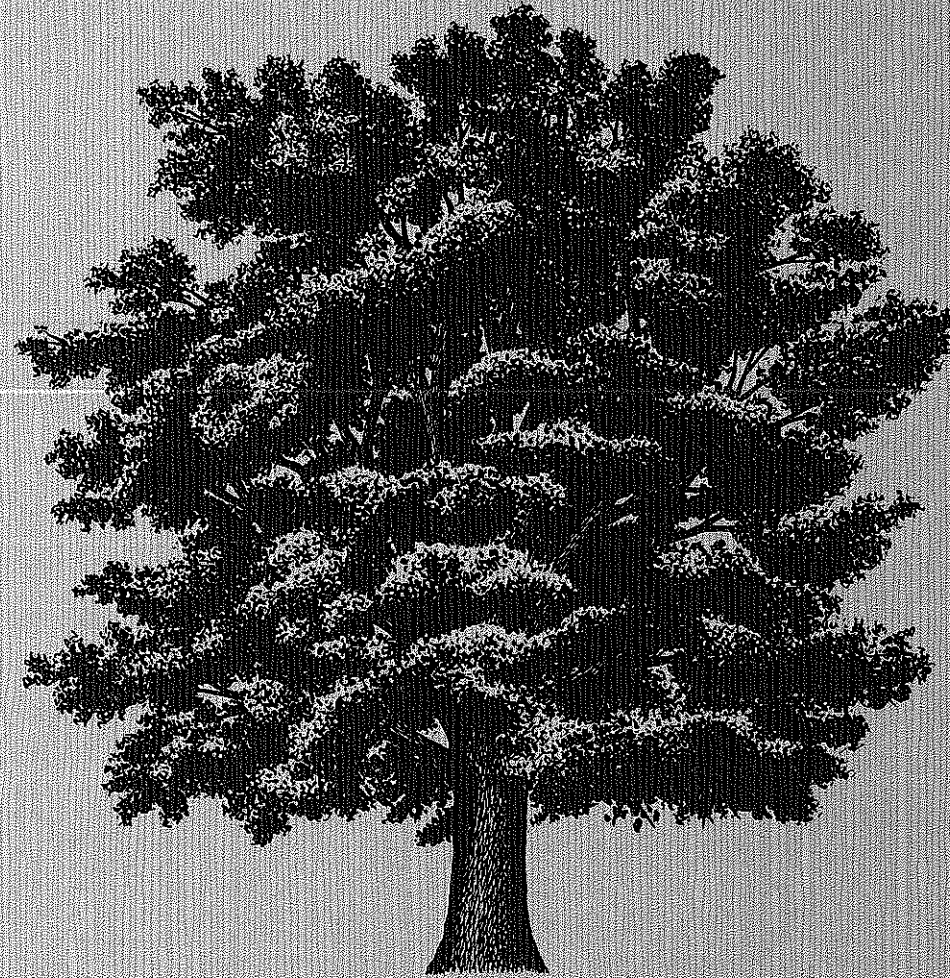


八十年のあゆみ



有限会社 大和家具店

ご あ い さ つ

明治38年9月渡道、この帯広の地に大和建具家具製作所として発足以来、昭和32年、有限会社大和家具店と法人化して現在を迎へて、こゝに満82周年を迎える事が出来ました。

これも一重に関係、お得意皆様様の暖かい御支援、御厚情の賜と心より感謝申し上げます、こゝに紙面より厚く御礼申し上げます。

昭和49年、第一次オイルショック来、日本の経済も年と共に安定し、あらゆる物質が満された時代の中で、私達建築関連業者の前途も年々厳しさを増しております。特に最近の住宅産業の低迷は私達が想像した以上にけわしいものがあり、加えて競走の激化と単価の底知らずの低下は頭を痛めるものがあります。そうした中で私達は、益々企業努力し、絶えずお客様に喜んでもらえるよう安心して使ってもらえる良い品作りに只今も努力中でございます。今后は更に社業発展の為、又お客様の御要望におこたへ出来るよう社員一丸となって建具家具製造に邁進する覚悟しております。何卒旧に倍してより一層大和家具建具の製品を末長く御利用、御愛顧賜りますように衷心よりお願い申し上げます。

大 和 与 三

大和家の年表

明治9年4月12日 祖父出生

渡道の記

祖父 大和権三郎は父 大和権三郎の長男として富山県高岡市木町百参拾参番地において出生する。

幼名は興次郎と云い後年父親の権三郎を襲名する。高岡市木町では200代も続いた古い家柄であった。商売はさだかでないが祖父が家業を継承してかなり手広く繁栄していたらしいが、世の移り変りはいつの世でも同じで商売が軌道に乗らず、新天地北海道に志を立て渡道する決心をして伏木の港から祖母 こと、長男 与一（私の父）と叔母 ソトと生れて21日しか経ってない乳飲み子（現 札幌の大和鉄二郎叔父）の家族4人を引つれてお先真暗な前途にいどんだのである。時に明治37年9月、祖父28才、与一9才、ソト叔母4才、鉄二郎叔父21日たったばかりでした。

后日談であるが、祖父一家の故郷をあとにする時の武勇伝的話を私は幼少の頃祖母と父親から何回か聞かされた記憶があるので一筆書とめておきたいと思います。

祖父はその時家業の方も余り順調に繁栄していなかったらしく若干なり義理も人情も欠いたように思われる。又そうした中での北海道行きの決心もあったように思われる。

自分も含めて5人の家族が船に乗った時、親戚の者がハシケで船まで来て北海道など行くな、この地で頑張るようそう強く忠告したらしいが祖父曰く、どうせ恥をかくなら知らぬ他国で俺は恥をかくと云って船から下りなかったと云ふ言伝の話を振返へる時、祖父は負けん気のはげしい気性の持主であった事がうかがわれる。沢山の思い出の話の中でも特に印象的である。

そうした悲愴の決意をした家族はその時、船宗谷丸で一路小樽港を

目指して出航するが途中大きなシケに合い、故郷の木町ではあの船は沈んだろうと噂になったそうである。そうした自然の厳しさと戦いながら小樽に船が着いたのは9月に出て10月に入っていたが寒かったと云う事である。当時の船はかなり小さかった事がうかがわれる。（日露戦争で大きな船が軍用船として徴収されたので）

小樽から汽車で旭川へ、旭川から狩勝峠の落合まで汽車で来る。（当時は帯広に来る時は落合止まりであったそうです）落合着は夜であつたらしく北国の10月の夜をみじめな家族はどこかでお互の体をよせ合いながら宿を取ったと思われます。

次の朝早く家族は駅通があつた十勝清水まで歩く結果となる。1人10銭出せば清水まで馬に乗れたようですが、着の身着のままの落武者にはそのような貯えなどあろうはずがなく、持物と云ったら乳呑児の必要なおしめと身廻品、コーモリと云った必需品ばかりであつた。落合から清水までの道程は又けわしいものがあつたようです。后日私が耳にした話ですが、札幌の鉄二郎叔父が生れて21日経ったばかりを祖母が背おいながら未だ4才のソト叔母の手を引き、私の父与一は未だ9才、それはそれは言語に絶する難苦行だつたようです。よごれたおしめなどは途中の川で洗いコーモリ傘の上に乾しながら取りかえ取りかえてようやく駅通のある清水に着いたのは初冬の寒い夜だつたそうです。何日かかって狩勝峠を越したかは私は聞いておりませんが、このような家族構成であればお互い想像が付く事と思われます。清水から汽車に乗り帯広に着いたわけですが、帯広では中村さんと云う人を頼って今の東2条6丁目1番地西仲通りの角の1戸2家借家の片方で早速ろばたに木の枝をくべて暖を取つたようです。（ソト叔母がその時の記憶が未だ覚えておると申してます）そうした帯広の第一歩のスタートに立った時、家族に残された財産は当時のお金で2銭だつたようですが、今私達が82年前を振返って見て伏木の港を発つて1ヶ月以上の間波にもまれ汽車にゆられ山野の峠を乳呑児と幼子を抱かえなが

らようやく着いた帯広の第一歩もそうしてろばたから燃え上る煙の中から小さな炎を見た時、祖父母は限りない安堵と同時にどのような会話を交わした事でしょう。今私達一族のものは少なからず他の誰よりも判るような気がしてなりません。

生活の記

このような貧めな家族には安堵する暇などありません。先ぐ5人の者が明日から食べる算段をしなければなりません。丁度その時38年完成の帯広駅の新築工事が進行中であり、祖父も馴れない大工の手元として働いたそうです。帯広駅が明治38年10月開業ですから当座の生活は大工の手元をしながらでも何んとかあったわけらしいです。

古くから天は人に2物を与へずとか、色気と大工気は誰でもあると申しますように、私達の祖父は天命に逆らはず自分がもっとも特技とす技に自信をもって挑戦した根性と信命は今も未だ私達の体の中を流れる血の一適となって生活の基盤をゆるぎなきものにし今もなお大和の技を通して社会の為にそれぞれの分野で一生懸命努力し誇をもてるのもこうした苦難の始まりがあった事も忘れてはならない。

明治38年 月日不明

新住所移転 独立開業

祖父も苦しいなかにも何んとか帯広町での正月を迎えたが、今思ってもそれは私達には想像も出来ないほど貧めなものでした。祖父も気性のはげしい負ん気の強い人で何時までも大工の手元などで人の下で働くような人ではなかったようです。よく祖母が話をしてくれた中では自分の気に喰わない事があれば先ぐ喧嘩になり、もう来るな俺も行かない、今で云う絶交と云った事がしばしばあったようで、そうした点では祖母は人一倍精神的苦勞をした事と思われま。そのような人でしたから翌年38年のおそらく冬も終り春頃だろうと思いま

すが現在の西3条南3丁目6番地に僅かの土地と小さな家を買求めて移動、住いの中に小さいながらも仕事場を作り、然別、伏古、東土狩と云った農家をお得意として独立開業し、こゝに大和建具家具製作所として現在の有限会社大和家具店の第一歩がふみ出されたわけです。

当時は成功家と云って国の土地に12坪の家を建てると162坪(今の1戸分)の土地が無償でもらえる制度がありましたが、祖父の場合は手に職があった為何一つも無償でもらったものはなく全部自分達で稼いだ金で買求めたようで何時も借金においかけていたようです。

私も祖父母からは余り借金に関する話は聞かされなかったが、父とか叔父、叔母からは沢山借金にまつわる話を聞き、人からお金を借りるなど云う信念みたいなものが身についた事は辛い悲しい伝説から学んだ教訓と思います。

当時のこのような生活の中でお得意は然別、伏古、東土狩と云った農家が多く、玄関(入口)などは建具はなくむしろを下げろばたでタキ火をしながらの生活が多かったようです。幸い家のお得意の農家は土地が豊かな場所での営農者が多かったせいで腕の良い祖父の技術はかなり評判が良かったらしいですが、何せ気に喰わないと先ぐ喧嘩したり偏屈な仕事をするので能率は上らず、大和に建具を頼むと2年から3年はかかると云われたそうで私もこの道に入った当時はよく農家の年寄の人から大和の建具は良いがおそいと云われた記憶が多くありますが、昔はそれでも何年経っても待っていてくれたようで、今考えると信じられないくらい人情味があったようですね。

札幌の叔父が小学校に入る頃ですから明治44年頃叔父が小学校に入る頃は勝治叔父、与四雄叔父等も生れ段々家族も多くなり、お得意様の数もふへて私の父あたりも15才ぐらいになり祖父の手伝も出来るようになったらしく生活も何かしらゆとりが出て来たように思われ、札幌の叔父の話でも判るように始めて家の中にストーブが付いたのもそ

の頃だと申しておりますが相変ず家の中はせまかったらしく、昔のお客さんは自分で馬車をかけ一晩泊りで建具をとりに来てくれたらしいです。その宿がなんとせまい大家族の住宅兼建具工場なのだからたまらない。余分の布団などあろうはずがなく、一番良さそうな布団をお客用に急ぎよ間に合せる筋書だ。布団を取り上げられた家族は一晩中丹前を着て寝たと云ふ（鉄二郎叔父の話）

隆盛期に入る（大正5～6年頃より）

いくつかの変換を重ねて大正の中期に入るが、大和の一族も苦しいながらも根も太く細かく張って行ったように思われ、働手も私の父与一の他に鉄二郎叔父も働手として戦力になり、3人が一生懸命働くようになって来てからは家計も苦しいながらも少しづつゆとりがあるようになったようですが自分の地所を増さなければならぬ宿命があったわけです。もともと広い土地でなかったわけで人手も増へ商売も広くなって行くにしたがい土地の確保があったわけです。又その頃より徐々に借金に苦しめられるようになりました。今のように銀行などでなく俗に云ふ高利貸です。父や叔父は云っていましたが、昔の素人のチョイ貸と今のサラ金とではかなり違った面もあるかと思われませんが、高利貸と云ふ名の付く人からのお金は理くつは別として支払も大変だったように思われます。丁度勝治叔父が未だ子供の頃、伏古の堀内某と云ふ人から金額不明だが金を貸りたらしく期日になっても中々払へない、明日払ふ明後日払ふで何回か足を運んで来たそうですが、元金は払へず若干の利息で勘弁してもらふと云ふ始末である。相手の高利貸しは決まって昼食にやって来るそうです。金を貸り、返へせない者の弱みで祖母は苦しい家計の中らご馳走を作ってお膳を立てたとも勝治叔父はよく私に話してくれた事は私達は忘れてはならないと思います。当時そうした借金はあくまでも家計の足しと云ふ事ではなく将来への飛躍の為の土地の買収費としての原資だったのが徐々に力を

付けて行った大きな要因だったようです。

又、何時の世でも栄華盛衰栄えるものもあれば亡びるものもあるように隣地に高田と云ふ糠内の人で正油屋があつて一時大変栄繁して羽振りを利用していたようだが奢りもあり段々商売が下火になり、土地を売ると云ふ事になり隣地であるが由借金しても買わなければならない羽目になった事が借金の大きな原因のようですが、苦しい中からも何とか力も貯へられたようです。無我夢中の中でこそ人間の隆盛があるのではないかと私達は教訓として学ばなければならぬと悟ります。

昭和初期の頃の動向（5～6年頃）

勝治叔父も働くようになり昭和2年12月4日に鉄二郎叔父も結婚して大和一族も働手は萬全の構へとなりましたが、十勝は農村の不況の為働くにも仕事がなく父与一と鉄二郎叔父は札幌に出稼に行く（昭和5年～6年頃）夜は残業2時頃まで働らく、札幌の出稼先の岩淵建具店の主人からよく働らいてくれたと感謝されたようです。私も当時の話は父から余り聞されなかったのですが、鉄二郎叔父と私の母ノブより時折耳にした記憶は未だ新しく残っております。11月の20日頃より12月の20日頃までの出稼はいくら札幌が十勝より暖かいと云っても、おそらく寒かった事でしょう。そうした寒さの中でタビもはかず素足で頑張った又他の人が休んでいても一生懸命会社の為働いたようです。そうした努力があったからこそ相手の親方が心から感謝されたのでしょう。札幌からの帰省の折、その頃始めて出た長靴をお土産にと弟達に買求めて帰へり大変弟達に喜ばれたと鉄二郎叔父がうれしそうに語ってくれた顔が非常に印象的でした。

昭和初期の不況は全国的なものらしく、銀行なども2～3倒産したと云ふ話も聞かされておりますが、父・叔父達の札幌への出稼と合せて考へる時かなり深刻だったようです。そうした時に市役所より帯広小学校とか柏小学校の生徒用机、椅子の修繕があり支払は市役所より

払ってくれたのでようやく息をつき、始めて荷車を買ったようです。その頃より自転車が出始まりましたが中々自轉車まで手が届かなかったと話してくれました。この頃より人手もあり、仕事も信用が付いて来たので昔の郵便局とか昔しの市役所と云った大きな工事の注文もあり、ようやく60銭で自転車を買ふ事が出来たようです。現在もある土蔵作りの倉庫はその時隣りの倉を解体して建てたものです。その時点では建物付で宅地が7戸分約1,000坪近にまでなっていた。

当時建具店も何軒かはあったが大和が一番先に機械の導入にふみきった。現在も昭和4年頃買入た角穴機などは第一線で活躍しており7年～8年頃買入た自動鉋機械と手押鉋機械は寄る年には勝てず今はゆっくり工場センターで後輩の活躍を見守っております。当時の記念的機械は今工場に4台大切に保存してあります。

ま と め

先代を偲んで

82年前の明治37年の時点に頭をめぐらせるとそこに祖父、大和権三郎の姿が見えてくる。この5体以外に頼るべきものとて持たぬ祖父は勃々として燃える志を胸に秘めながら、なにものにも屈しない不屈の精神で一人建具家具の道を歩きはじめたのである。

すべての創業者の歴史がそうであるように大和82年の歴史は無事平穩ではあり得なかった祖父が、未拓開の地帯広に根を下し建具家具製造業を始めた時、祖父に前進の力を与へたのはこの道と家族の為に生きる明日の夢だった一つ、又一つその夢を実現しながらその行手に新しい夢を描いて来たこの一筋の道の行きつくところに彼岸があると云う方向、歳覚を頼りに未踏の荒野をふみ分けて来たのであろう。砂漠に種を播くように未知の地帯広に必ず何んとかして見せると云ふ固い決意で繁栄と云ふ緑の苗木を、苗へ育てた祖父母の生涯の歴史は同時に私共一人一人の生活史でもある。

あとがき

祖父母が渡道して82年たちました80年にこのような記念誌的なものを出す予定でしたが、丁度時悪く私も健康を害して床に伏し、折角のチャンスを逃して以来何んとか旧復した今先代の苦難の上に現在の私達の恵まれた生活がある時、少なからず私達の生立ぐらひは知っておき、又子孫に言い伝える事は義務と云ふよりもお互の繁栄の為にも決して忘れてはならない事を痛感し、祖父母、叔父の言葉を断編的に書いて見ました。孫の中で私が一番遵父母に時間的にも多く接しており、又叔父、叔母、父母からも多沢の昔話を聞いております。そうした一つ一つの厳しい歴史を私達一族が先代の形見として受取って頂きたいと思ひます。このように文をまとめるなんて赤面の至りでございます。先代の苦難の生活史全部を網羅することは出来ませんが、荒筋のみ紹介させて頂きその他のもれている部分については各自の家庭でご覧察下さい。あくまでも82年前からの記憶をたどっている関係上年代と月日の若干のずれが多くあろうかと思ひますが、現在までの生活史はすべてはこの一連の流水の中に事実としてあったと云う事でご推察下さい。

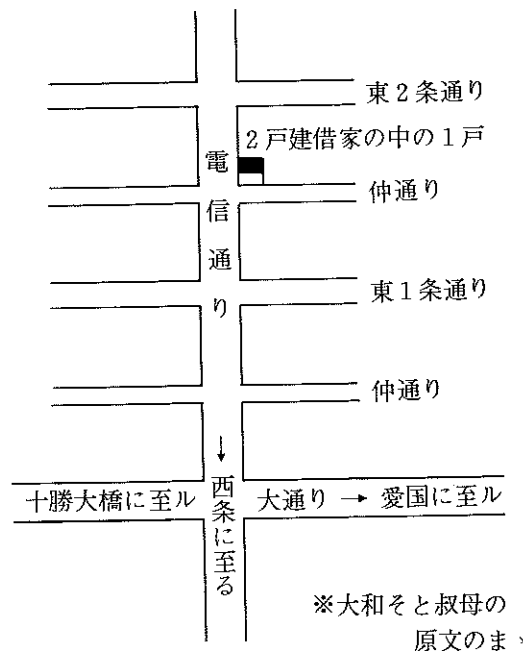
この度の事については叔父、叔母に御協力頂きました。特に鉄二郎叔父には私がお宅までおしかけ1日中貴重なお話を聞かして頂きほんとうに参考になりました。紙上を以って心からお礼申し上げます。有難うございました。

大和本家長男 大 和 与 三

～参考資料の一部～

大和そと叔母が東京在住の時私がお願いして書いて頂いたものです。原文のままです。

祖父が一家5人で北海道へ渡ったのは明治38年9月も終り頃でした。秋と云ふのに冬に近い位の寒さでした。帯広の第一夜はろばたに木の枝をくべて暖を取ったのを覚えています。伏木港を出て小樽に着く迄は波荒く船は小さくて客は皆難儀したそうです。日露戦争が初まってる最中ですから大きな船は皆軍に持って行かれた、め小さいので我慢しなければならなかったのです。やっと小樽から汽車に乗れましたが、又勝狩の国境から落合迄歩いたのです。昔の事でしたから其の道中の苦しみの程はとても口では言われぬ位難儀したそうです。其の当時祖父は28才、兄（与一）9才、私（そと叔母）4才、鉄二郎さんは生れて未だ21日しかたっていない時だったそうです。でも兄はだまって一言も小言も云わずもくもくと歩き続けたそうです。母は（祖母）いつも其の当時の事を云って兄をほめて居りました。私は歩かないと云って両親を困らせたとの事です。乳呑児をかかへての道中ですから想当難儀せられた事と思われます。やっと落合の駅でい（宿）に一晩泊り又帯広迄歩いたとの事です。1人10銭出せば馬にのれたそうですが、もったいなくてと云って居られました。帯広の第一歩は今の東2条南6丁目1番



地の西仲道角でした。田中光彦さんの並びの北側角です。角に渡辺たばこ屋、隣りが松倉魚屋、あのところでした。翌年38年は現在の所に引越しました。初めはせまい所を仕事場にしてずいぶん我慢しました。兄弟力を合せて父を助け懸命に家のため、家のためと努力したのです。

祖父母、叔父母の生年月日

故 祖父 大 和 権三郎
 父 大 和 権三郎 長男 幼名 与次郎
 母 不 詳 明治9年4月12日生

出生地 富山県高岡市木町133番地
 大正4年8月16日受付入籍

故 祖母 大 和 こ と
 父 苗加七郎右エ門 長女
 母 苗 加 ノ ブ 明治5年10月10日生

明治28年9月16日本市坂下町平民苗加七郎右エ門
 長女入籍

故 大 和 與 一 長男 明治29年4月15日
 大 和 そ と 二女 明治34年1月27日
 大 和 鉄二郎 二男 明治37年8月27日
 大 和 勝 治 三男 明治41年6月10日
 大 和 與四雄 四男 明治44年4月11日
 故 大 和 みい子 三女 大正3年2月12日
 故 大 和 誠 治 五男 大正6年1月19日

会 社 の 変 歴

- ① 明治37年 9 月 富山県より帯広に移住する
- ② 明治38年 5 月 帯広市の現住所に移住、建具家具の製造を開始する
- ③ 昭和4年～7年～8年 帯広木工業界で始めて木工機械導入する
- ④ 昭和23年 資本金 100万で有限会社大和家具店の商号で会社設立、法人に組織変更する
初代社長 大和与一氏就任する
- ⑤ 昭和25年 帯広市大通り10丁目10番地に家具建具の販売所店舗新築する
- ⑥ 昭和27年 9 月18日 初代社長 大和与一氏死去する
- ⑦ 昭和27年 9 月20日 2 代目社長 大和鉄二郎氏就任する
- ⑧ 昭和42年 4 月 大和鉄二郎氏札幌に移住する
- ⑨ 昭和42年 5 月 3 代目社長 大和与三就任する
- ⑩ 昭和45年 8 月 6 日 資本金 150万に増資する
- ⑪ 昭和48年 1 月31日 建設業許可を受ける (建具工事業)
- ⑫ 昭和49年 6 月11日 資本金 214万増資する
- ⑬ 昭和50年 5 月 製品センター落成する
- ⑭ 昭和54年 4 月12日 資本金 550万増資する
- ⑮ 昭和55年 8 月 6 日 資本金 715万増資する
- ㊟ 昭和50年11月25日 優良道産品推奨協議会よりカラマツドアー大和推奨受ける
現在も優良道産品推奨工場

会 社 の 概 要

- 本 店 工 場 帯広市西3条南3丁目6
 営業品目 建具家具造作枠家具一式
 インテリア内装工事
- 支店販売センター 帯広市大通り10丁目10～11
 営業品目 高級家具全般、インテリア家具、
 カーテン、ジュータン、クロス
 内装工事一式

本店人員構成

代表取締役	大 和 与 三
専務取締役	長 島 健 二
〃	宇 野 男 己
〃	小 泉 昂
	上 井 芳 夫
	武 田 守
	大 和 よ し
	今 野 信 義
	菅 野 憲 徳
	小 柳 和 男
	大 和 与 志 一
	東 喜 美 子
	梅 本 トキエ
	早 瀬 光 雄

支店人員構成

センター店長取締役	大 和 英 治
	野 上 光 行
	堀 川 勉
	矢 野 正 治
	村 上 浩 一
	竹 重 紀 子
	長 島 多加子
	大 和 裕 子
	伊 藤 洋 子

工場設備一覧表

木材乾燥機	6石入	1基
木工用プレス機	4尺×8尺	2基(動力)
〃	3.5尺×16尺	1基(手動)
柄取機		1基
高速横換機		2基
昇降機		2
高速面取機		1
ワイドカッター		1
手押鉋機		2
自動鉋機		1
超仕上機		2(1台は自動送り)
傾斜昇降機		1
角穴機		3
横換機		1
建具組立機		1
ラジアルソー		1
8軸ダブルテールマシン		1
ジョイントフィンガ機	2台	1式
糸鋸機		1
ルーターマシーン		1

営業の履歴書

～建具家具工事・主なもの～

年月日不明、札幌の叔父よりの話

昭和5年～7年頃	旧市役所、郵便局(本局)、旧商工会議所
以来毎年春先	市内及各町村の生徒用机・椅子製作
昭和38年11月	根室標別防衛庁隊舎建具工事
昭和39年11月	道立帯広工業高校建具工事
昭和40年12月	道立帯広農業高校宿舎建具工事
昭和41年9月	畜産大学校舎第1期建具工事
昭和42年9月	畜産大学校舎第2期建具工事
昭和43年10月	帯広道営住宅建具工事
昭和44年6月	池田電信電話局建具家具工事
	帯広市開発建設部アパート建具工事
昭和45年8月	第一熱原ビル建具家具工事
昭和46年9月	市内栄小学校建具工事
	12月 士幌町立国保病院建具家具工事
昭和47年8月	幕別町庁舎建具家具工事
	9月 帯広市総合体育館建具家具工事
昭和48年7月	帯広グランドホテル建具家具工事
	10月 弟子屈国立病院訓練棟建具家具工事
昭和49年10月	市内協立病院建具家具工事

- 昭和50年 6月 帯広郵便局本局社屋建具家具工事
 10月 畜産大学管理課棟建具家具工事
 昭和51年 9月 帯広刑務所アパート建具工事
 昭和52年 7月 大谷高校新築建具家具工事
 9月 音更町庁舎建具家具工事
 12月 帯広市公営住宅4階建建具工事
 6月 糠平ホテル大雪建具家具工事
 昭和53年 6月 川湯温泉御園ホテル建具家具工事
 10月 町立鹿追スポーツセンター建具家具工事
 12月 豊頃町農協庁舎建具家具工事
 昭和54年 6月 十勝川温泉笠井観光ホテル建具家具工事
 10月 町立鹿追中学校建具家具工事
 昭和55年 2月 帯広市厚生病院建具工事
 帯広市厚生研修センター建具工事
 昭和56年 3月 畜産大学国際交流センター建具家具工事
 昭和57年12月 道立帯広農業高校建具工事
 12月 市内拓銀ビル改築建具家具工事
 昭和58年10月 緑陽高校校舎建具家具工事
 11月 市内ヒルトンビル建具家具工事
 昭和59年10月 アイレディス社屋建具家具工事
 11月 辨慶総本店建具家具工事

以上、主な建具家具工事です

— 思い出のアルバム —



祖父母の晩年の写真



父与一 鉄二郎叔父 勝治叔父 与四雄叔父 母ノブ みい子叔母

誠治叔父 高岡開正寺の僧さん 祖父権三郎 私 与三 祖母こと

昭和2年9月頃と思います。
 (私が昭和2年7月6日生れですから)
 うしろの住宅が一番古い住いです。



父与一 鉄二郎叔父 そと叔母

勝治叔父 与四雄叔父 みい子叔母 祖母こと 誠治叔父

大正6年の春頃と思います。

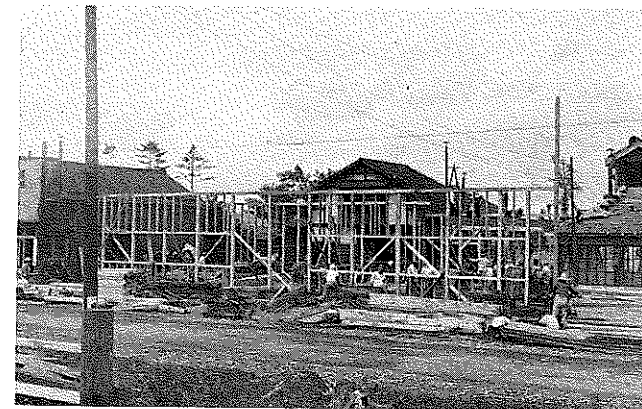


中の建物が1番古いものです。古い方の向って左側の片融で祖父が仕事をしていた場所です。古い方の右側は勝治叔父の住宅をあとから工場に改造したものです。

左パラペットの所が昔からの土蔵です。現在も昔のまゝありますが90年ぐらい経過している事でしょう。又右側の2階の窓のあるのは終戦後鉄二郎叔父が建てたものです。昭和20~30年の間。



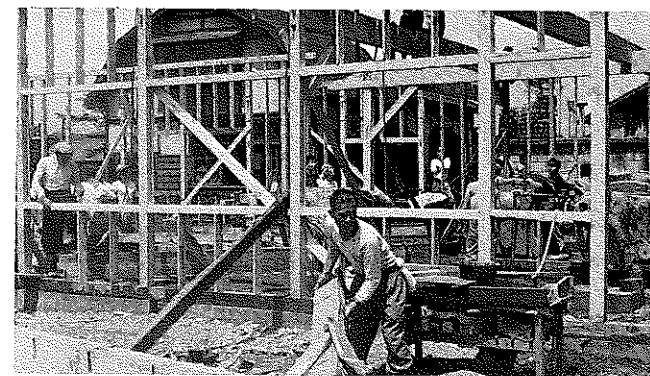
上記工場を右より写す



左記中の古い工場を新築する。建前の風景。後しろの中2下が私達の古い住宅



上同じ
建築は千野市街の中谷建設工業。



札幌の鉄二郎叔父が一生涯懸命材料片付をしています。



一応完成です。総工費は記憶ですが150万ぐらいで出来たようです。現在ですと1,400万ぐらいかかります。昭和30年~35年頃と思う。

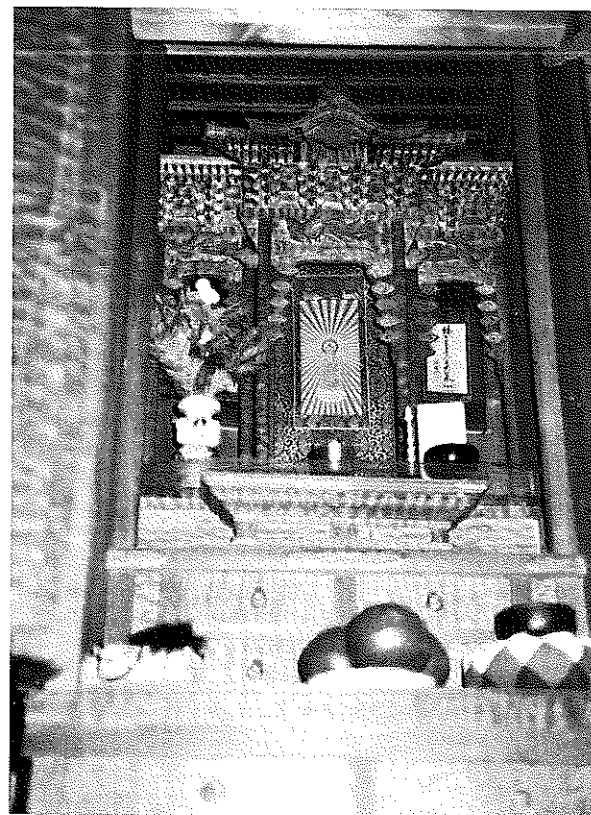
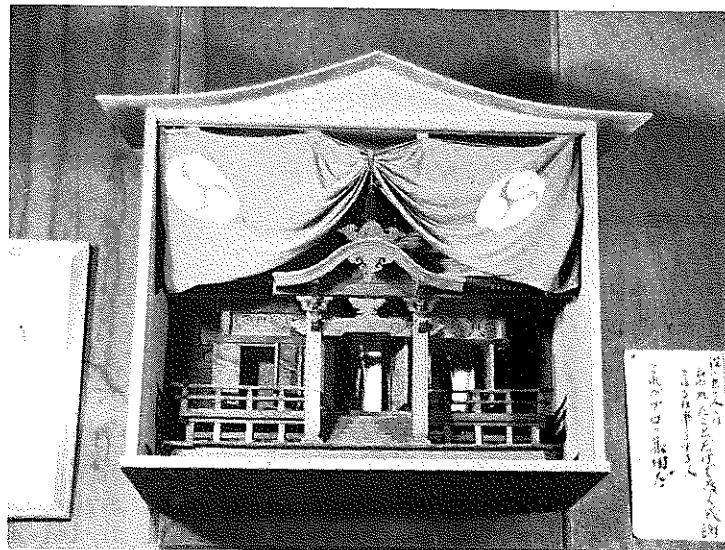


札幌の鉄二郎叔父の所有です。
左記本箱は鉄二郎叔父が大正12年1月に製作したものです。年代記入がなつかしいです。私の生れる前のものですね。



事務用机、昭和3年5月新調と記入してあります。古いものです。此の机は今より大分前に大通り7丁目か8丁目に三友商会と云ふ家具店があり、その主人が内地方面の家具又は道内の有名家具工場の製品を集めて来て昔の公会堂で販売かたがた即売会を開いた時、叔父が何か参考になる製品がある事と思い会場に行き自分が一番気に入った製品だと思い自分で製作したものです。今より56年位前の物。

祖父がこの神棚3
ヶ作った内の1台
です。現在工場に
置いてある外枠は
あとで作ったもの。
3台のうち1台は
川西方面にあるら
しいと聞いており
ます。



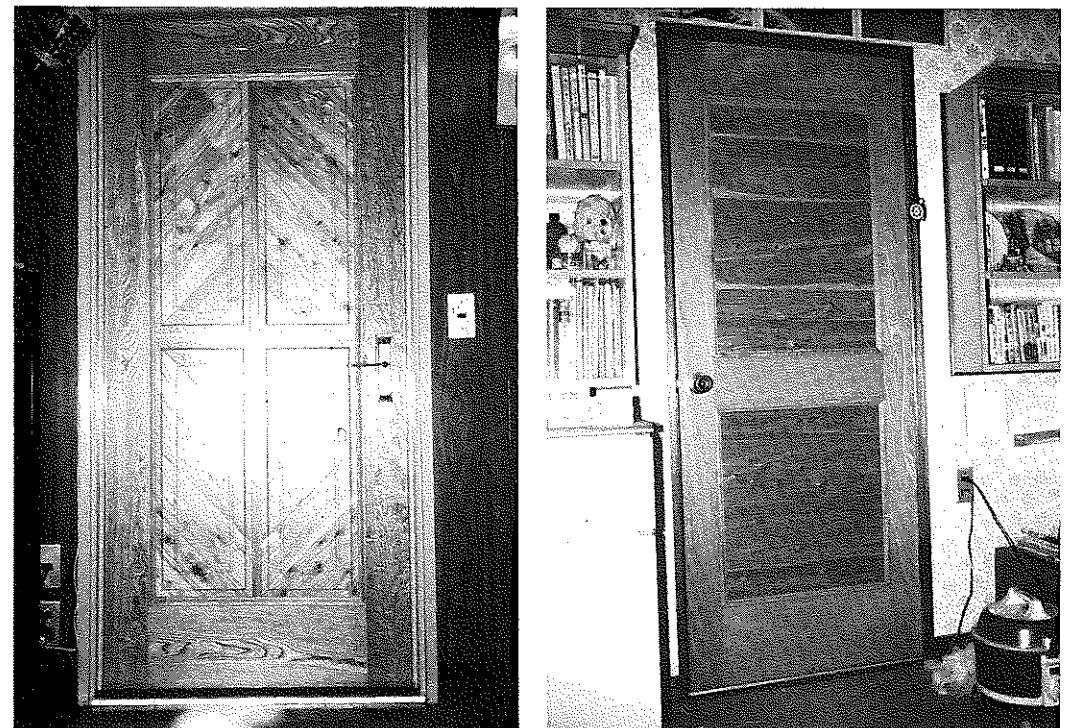
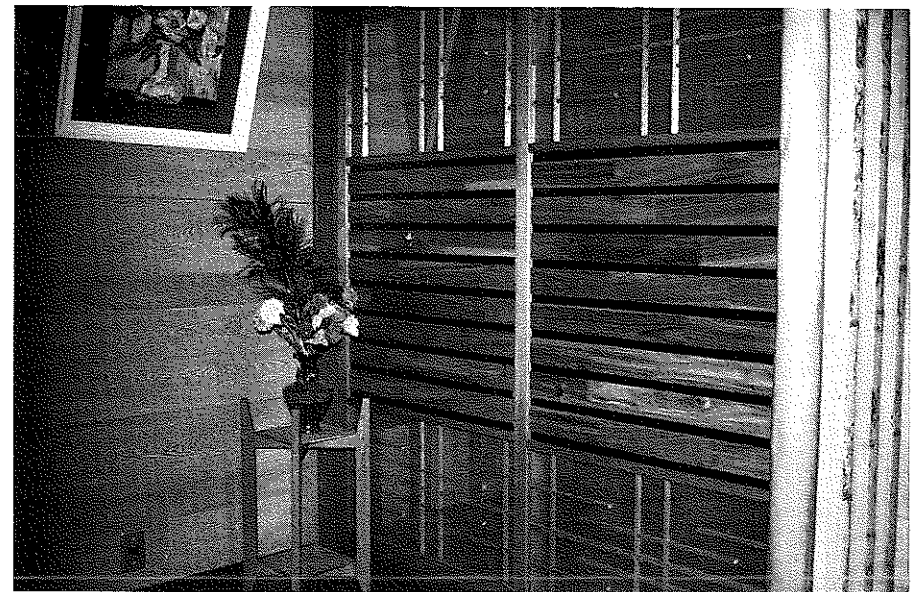
祖父が大正5年頃製作した仏壇です。この仏壇は現在札幌の鉄二郎叔父の所にありますが、叔父が小学校5年か6年生の時の年代物です。外枠部分は私の父も一部祖父に手伝って作ったそうですが、中の彫刻は祖父が全部ほったものです。今から丁度74年前の仏壇です。私も見せてもらいましたがよく出来ているなーと感心の傑作です。

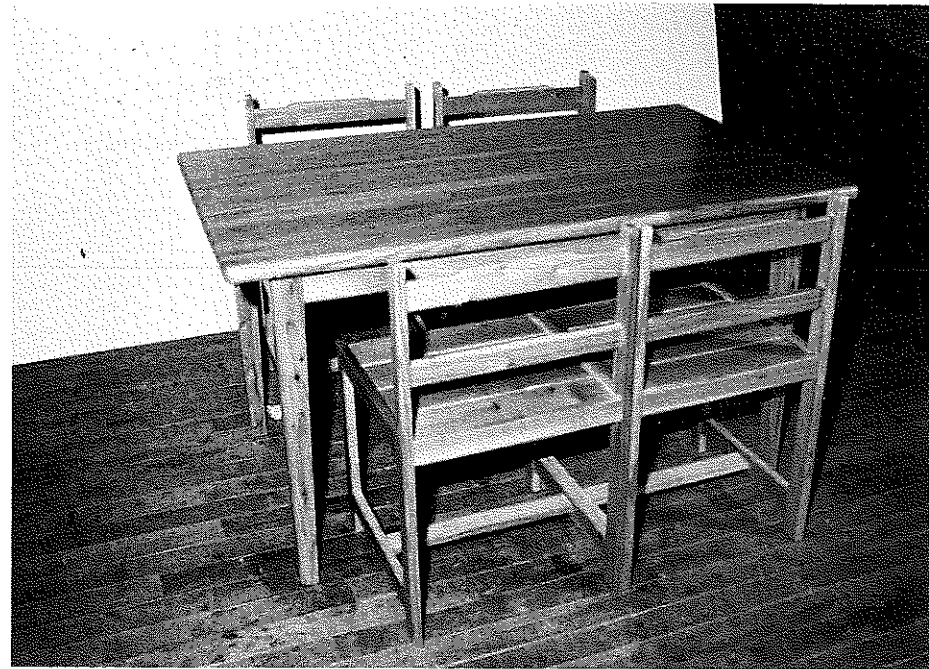


優良道産品推奨品

カラマツドーア大和

自然の豊さ個性的カラマツドーア大和

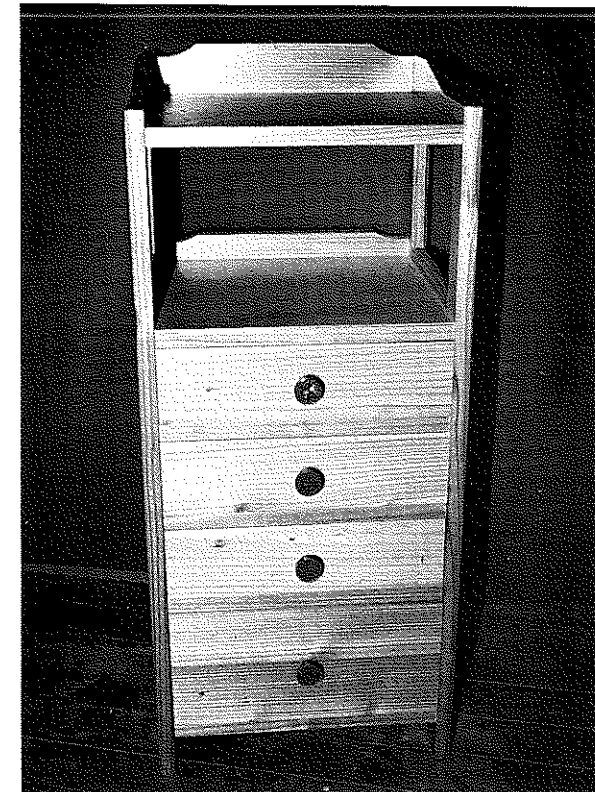


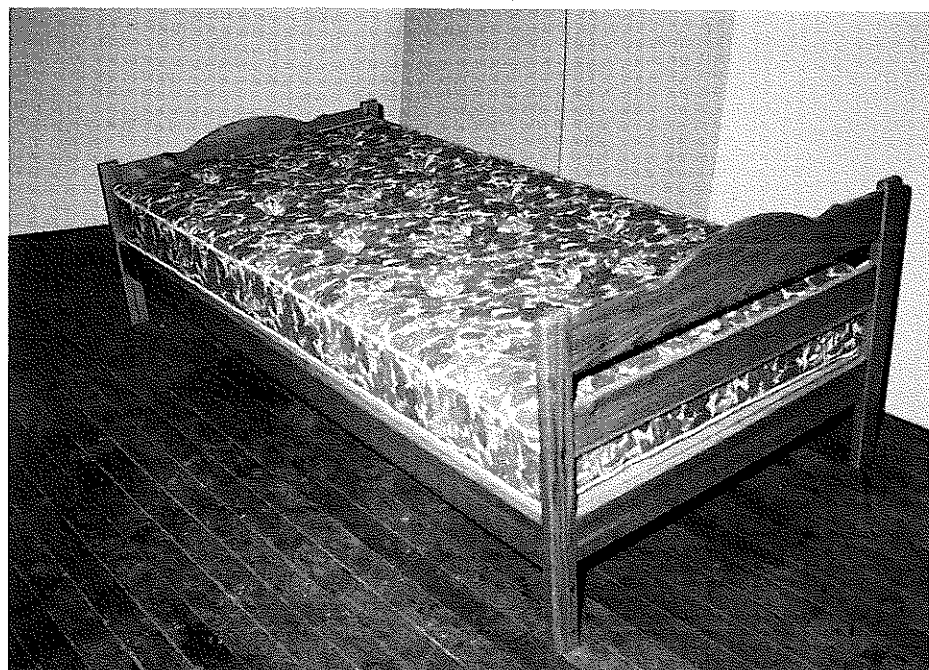


食卓



からまつの会議用テーブル

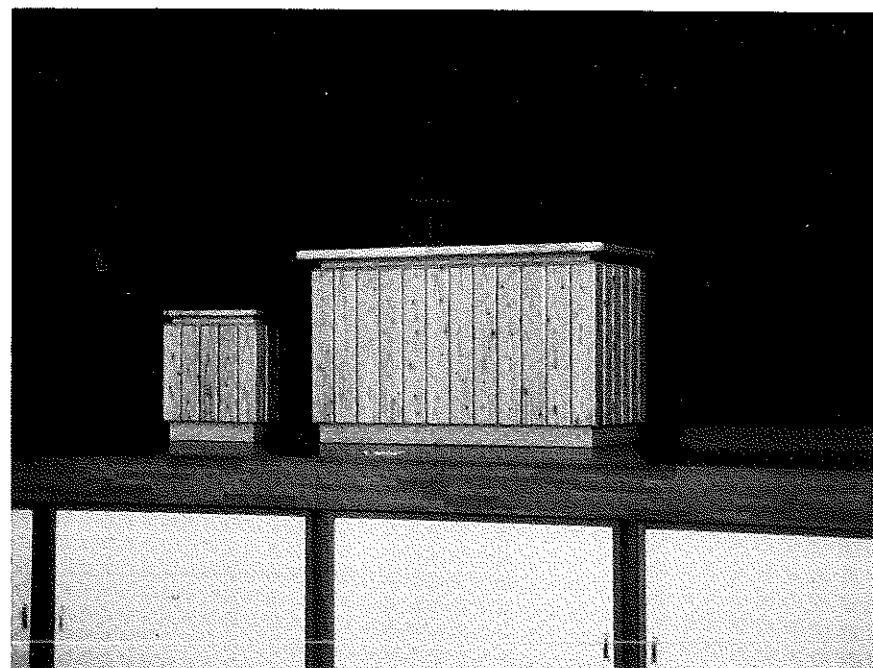




シングル寝台



自然の豊さ個性的な ^{男性的な} _{女性的な} カラマツ家具の魅力



池田町
高島公民館
演台と花台

洋卓



八十年のあゆみ

発行者 大 和 与 三

発行月日 昭和61年10月1日

印刷所 十勝印刷機